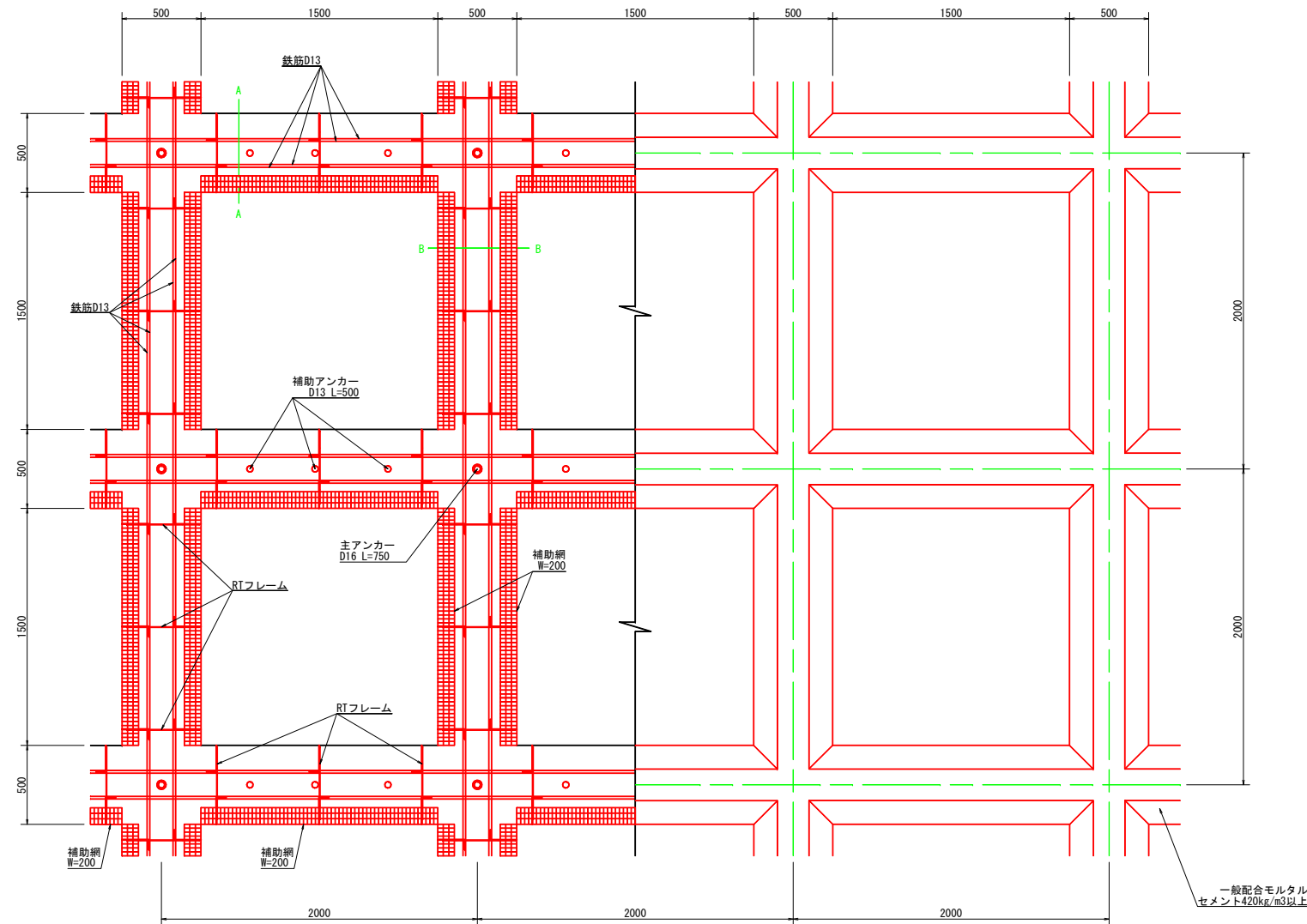
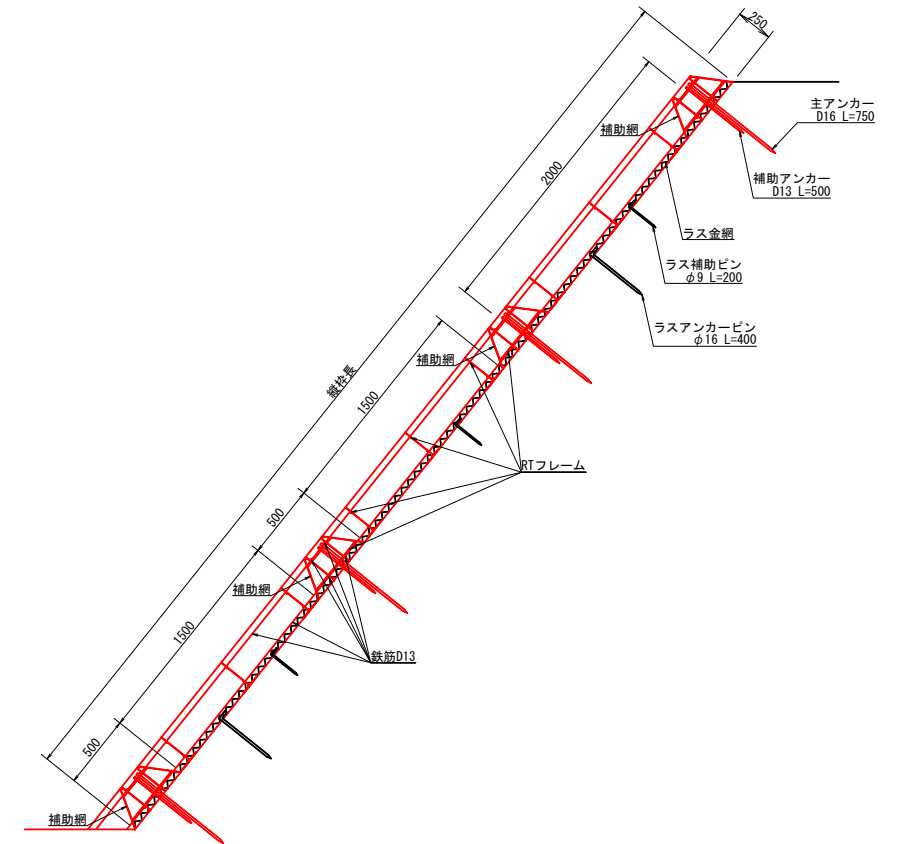


# 構造図 RTIV型 2000×2000

標準施工図 (正面図) S=1:20



標準施工図 (横断面) S=1:25



## 標準数量 (積算基準数量)

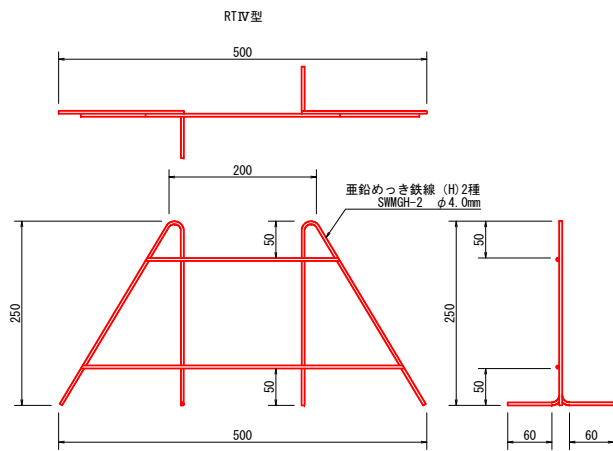
高さ20.50m×長さ50.50m=1035.25m<sup>2</sup>の法面として数量算出  
 横枠数 = (20.50m-0.50m)/1スパン2.0m=10スパン +11段  
 縦枠数 = (50.50m-0.50m)/1スパン2.0m=25スパン +26列

項目	材料	数量	数量計算
法枠長		945.50m	(20.50m×26列+50.50m×11段)-26列×11段×0.50m=945.50m
鉄筋加工組立工	鉄筋 D13 SD345	4332.23kg	(20.50m×26列+50.50m×11段)×4本×0.995kg/m=4332.23kg
RTフレーム設置工	RTフレーム IV型 W=200-500 h=250	1605個	縦枠 3個/スパン×10スパン×26列=780個 横枠 3個/スパン×25スパン×11段=825個
主アノカ設置工	先付けアノカ D16 L=750	286本	26列×11段=286本
補助アノカ設置工	先付けアノカ D13 L=500	825本	3本/スパン×25スパン×11段=825本
補助網設置工	吹付待用金網 200×1500	795枚	縦枠 2枚/スパン×10スパン×26列=520枚 横枠 1枚/スパン×25スパン×11段=275枚
枠内清掃工		250箇所	10スパン×25スパン=250箇所
法枠吹付工	一般配合モルタル	86.49m <sup>3</sup>	断面積=0.088m <sup>2</sup> 交差部体積=0.0325m <sup>3</sup> (20.50m×26列+50.50m×11段)×0.088m <sup>2</sup> -26列×11段×0.0325m <sup>3</sup> =86.49m <sup>3</sup>
枠内面積		562.50m <sup>2</sup>	1035.25m <sup>2</sup> -945.50m×0.50m=562.50m <sup>2</sup>

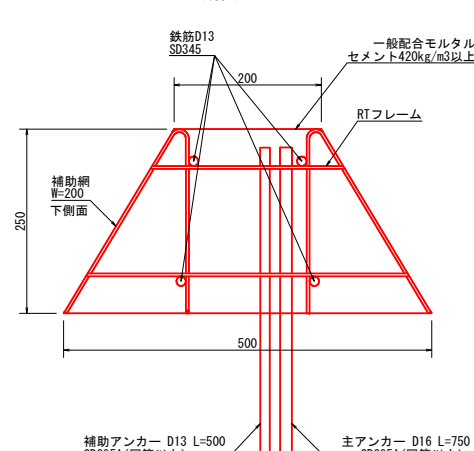
\*損失ロスを含まない数量。  
鉄筋使用量には1%加算が必要。

\*損失ロスを含まない数量。  
吹付使用量には3%加算が必要。

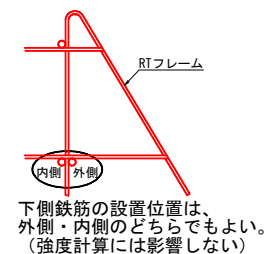
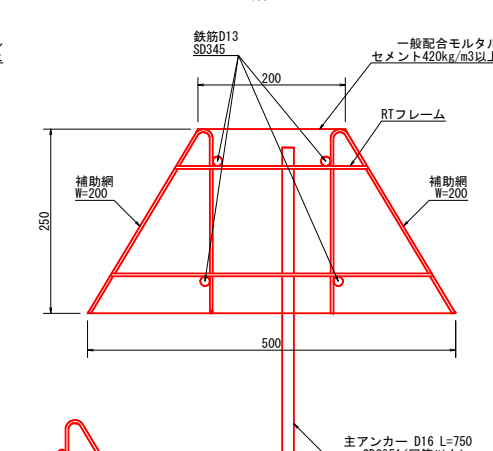
RTフレーム詳細図 S=1:5



A-A断面 S=1:5



B-B断面 S=1:5



## 注意事項

- \*本表記載の数量は、法枠長1.0m当りの工事準備を求めた積算基準数量であり、基準スパンに基づいて求めた数量である。実施スパンは法面形状に応じて調整を行うので実施数量も変動するが、単価積算での数量変更は行わないものとする。
- \*モルタルの設計基準強度は18N/mm<sup>2</sup>に設定している。(標準配合:セメント420kg/m<sup>3</sup>、1:4モルタル)
- \*モルタルに混和剤・添加剤は含んでいないので、必要に応じて計上するものとする。
- \*鉄筋はD13×SD345を標準とし、重ね長さは455mm以上とする。(計算書による。)
- \*下側の鉄筋設置位置は、外側・内側のどちらでもよい。(断面図参照)
- \*各アンカーは、吹付中に鉄筋がズレないように状態に設置し、鉄筋を固定する。
- \*横枠の下側面と、縦枠の両側面へ補助網(吹付待用金網相当)を設置し、モルタルのダレを防止する。設計網幅は必要最低限の200mmとしているので、200mmより広いものを使用してもよい。
- \*吹付の仕上げは自然状態とし、小手による整形は行わないものとする。但し、ロックボルト併用の場合の角座金設置面は、平坦な仕上げとする。

